

令和 6 年 6 月 23 日現在

機関番号：32406

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01469

研究課題名（和文）岐路に立つASEANの選択 - 「一帯一路」と「インド太平洋」の間で

研究課題名（英文）Choices for ASEAN at a Crossroads: Between the "Belt and Road" Initiative and the "Indo-Pacific" strategy

研究代表者

金子 芳樹 (Kaneko, Yoshiki)

獨協大学・外国語学部・教授

研究者番号：40233895

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、中国の台頭と米中対立という地政学的な新局面に直面し、地域機構として岐路に立つASEANとその加盟国がこの局面にいかに対応し、それが地域秩序にどのような影響をもたらすかを、中国の「一帯一路」構想、日米主導の「インド太平洋」構想への対応を軸に検証した。国際・地域・国内の3次元からの分析を通して、中国が経済・軍事面でASEAN諸国への影響力を強め、それが米日などの対抗的な関与を招くことで、ASEANの結束や一体性を揺るがせ、地域秩序を不安定化させている状況が浮き彫りになった。対中経済依存を強めながらも、政治・外交的には中立と均衡の堅持を目指すASEAN各国の姿勢や政策も明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、(1)ASEAN研究に関して経験と実績を蓄積し、かつ多様な研究上の背景を持つ研究者による多角的な検証と分析、(2)学際的かつ「国際・地域・国内」の3次元からの重層的アプローチ、(3)中国の「一帯一路」と米日主導の「インド太平洋」構想の双方に対するASEAN諸国の対応を比較する取り組み、といった点を強みとして新たな学術的成果を提示したことにある。社会的意義としては、日本のASEAN研究を質量ともにさらに充実させ、その成果を出版やオンラインを通じて広く一般に公開して社会に還元するとともに、国内外の研究者や研究機関との協力・連携の進展を図ってきた点が挙げられる。

研究成果の概要（英文）： The study examined how ASEAN and its member states, facing a new geopolitical phase characterized by China's rise and U.S.-China rivalry, respond to this situation and how it affects the regional order, focusing on their responses to China's "Belt and Road" initiative and the U.S.-Japan-led "Indo-Pacific" strategy.

Through analysis from international, regional, and domestic dimensions, the study highlighted that China's increasing influence on ASEAN countries in economic and military aspects invites counter-engagement from the U.S., Japan, and other countries, thereby undermining ASEAN's cohesion and unity, and destabilizing the regional order.. It also revealed the stance and policies of ASEAN countries aiming to maintain neutrality and balance politically and diplomatically, despite their growing economic dependence on China.

研究分野：東南アジアの政治・経済・国際関係

キーワード：ASEAN 東南アジア 一帯一路 インド太平洋 中国の台頭 米中対立 南シナ海問題 アジア太平洋

1. 研究開始当初の背景

本研究のベースとなる研究会では、これまでも ASEAN の政治・経済・国際関係に関する共同研究を積み重ねてきた。科研費補助成事業（基盤研究 B）として採択された「東アジアの地域秩序と ASEAN の課題」（2005～06 年度）、「地域国際環境の変容と ASEAN 型地域主義」（2007～09 年度）では、ASEAN による地域統合の進展とアジア太平洋の地域秩序形成に果たしてきた役割を中心に分析し、また「『ASEAN 共同体』の拡大と深化 地域機構の展開と EU 危機への新たな視座」（2017～19 年度）では、中国の大国化、欧米諸国での政治変動、米中対峙の常態化といった国際環境の変化が ASEAN の統合や機能にもたらす影響や ASEAN 側の対応について検討した。

これら分析を通して、ASEAN が、東南アジア域内においては地域統合と自律的發展を促しつつ「ASEAN 共同体」の構築に向けた過程を牽引・前進させ、域外の大国に対しては協力、対抗、バランスなどの対応策を駆使しながら地域秩序の形成・維持に貢献してきたことを明らかにした。しかし、2010 年代半ば以降、アジア太平洋地域では「中国の台頭」、「米中対立」といった地政学的な地殻変動が急速に進み、ASEAN とその加盟国は新たな情勢認識と対応を迫られるようになった。ASEAN はいかにして地域機構として従来の機能を維持し、現下の難局を乗り越えようとしているのか、もしくは ASEAN やその加盟国が大国間の覇権争いに巻き込まれ、これまで追求してきた統合や地域機構として機能を変質もしくは消失させることになるのか、といった点が問われるようになったのである。

このような状況を背景にさらに研究の視野を広げ、ASEAN そのものの動静のみならず、それに影響を及ぼす新たな地域・国際環境やその変化も取り込んだ新たな分析視角やリサーチ方法の導入が必要となった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、中国の台頭と米中対立という地政学的な新潮流や地殻変動に直面して、地域協力機構としての ASEAN とその加盟国が、この局面にいかに対応しようとしているか、またそれが東南アジアにおける地域統合や地域秩序にどのような影響をもたらすかを明らかにすることにある。ASEAN は結成後半世紀をかけて東南アジア域内の統合およびより広域な地域協力のための機能を拡大・深化させてきた。しかし、覇を競う大国の影響や介入の拡大に伴ってその役割や存在感は薄れ、さらに米中両大国が域内諸国を自陣へと引き合う中で、ASEAN 諸国内では分裂や不協和音が顕在化かつ常態化しつつある。

このような ASEAN をめぐる新たな局面を分析するために、本研究では第一に、中国の強まる経済的影響力および習近平政権が 2013 年以降推し進めてきた広域経済圏構想「一帯一路」が、ASEAN 諸国に及ぼしてきた影響や変化の実態を明らかにするとともに、それらに対する各国の対応やそれらが ASEAN の統合や機能に与える影響を検証した。第二に、中国の国力拡大と覇権主義的な行動を既存の国際秩序への挑戦・脅威と捉えるアメリカが、日豪などとも対抗的に打ち出した新たな枠組「インド太平洋」協力を、ASEAN とその加盟国がいかに位置づけ、対応してきたかを考察した。

これらの検討過程を通して、岐路に立つ ASEAN の選択と今後の展開を読み解く分析視点を示

すとともに、日本の対 ASEAN 外交の将来に向けた視座を提供することを目指した。また、研究を進める上で、研究者ネットワークの拡大、社会に向けた研究成果の公表、若手研究者の育成といった副次的効果を生み出せるよう配慮した。

3. 研究の方法

研究事業のスタートにあたり、本研究に携わる各研究者が、従来の研究成果を基に今回の研究テーマに関する問題を提起する形で研究書『「一帯一路」時代の ASEAN—中国傾斜の中で分裂・分断に向かうのか』（金子芳樹・山田満・吉野文雄〔編著〕、明石書店、2020 年）を上梓した。この成果を土台に、本研究では、「国際・地域・国内」の 3 次元、つまり、(1) ASEAN を取り巻く地域・国際情勢の新展開、(2) ASEAN の統合における組織的求心力と遠心力、(3) 域内各国の政治・経済・社会変動と対外関係の 3 つの視角から捉え、各次元の相関にも着目しながら分析を行った。上記 3 方向からのアプローチに沿って 3 つのグループを構成する研究体制の下、グループごとのリサーチ・分析とグループ間の連携を組み合わせた複合的な実証分析を目指した。

具体的なりサーチ・分析の方法として、(1) 東南アジア諸国、中国、アメリカなど現地における聞き取り調査、(2) 一次資料、二次資料の収集および分析、(3) 定期的な研究会、国内外の学会などでの研究報告、討論、フィードバックの回収などによる研究成果の検証や精緻化、などを実施した。また、社会に向けた研究成果公表の方法として、本研究プロジェクト独自のウェブサイトの公開・更新、一般市民向け公開シンポジウムの開催、ASEAN に関する初学者、大学生、ビジネスマンなどを対象とした入門書の企画・執筆などを行った。

ただし、海外での現地調査や国際学会等への参加については、初年度の事業開始早々に新型コロナウイルス感染症のパンデミックが拡大し、その後(繰越延長された 4 年目の最終年度を除き)約 3 年間にわたって海外渡航が不可能となったため、現地調査の実施や国際学会への参加は大幅な縮小やオンラインによる限定的参加を余儀なくされた。

4. 研究成果

上記の「研究方法」に挙げた 3 つの次元ごと研究成果を概観し、本研究の研究成果を盛り込んで発表された文献を示す(著者名の 50 音順)

(1) ASEAN を取り巻く地域・国際情勢の新展開

2010 年代後半以降、中国の経済・軍事面での台頭は従来の覇権国アメリカの地位を脅かし、後者がそれに対抗することで両者の対立が深まった。本研究では、米中両国が互いに牽制、対抗、報復を重ねて関係を悪化させ、経済分野では輸入品のほぼすべてに関税を掛け合う「米中貿易戦争」や、安全保障を理由に米政府が進めるサプライチェーンの分断といった政策の実態を明らかにするとともに、米中両陣営が経済・安全保障両面で ASEAN 諸国の自陣への取り込みを活発化させている事態について分析を進めた。この分野での主要な研究成果は以下の通りである。

- ・浅野亮・土屋貴裕編著『習近平の軍事戦略—「強軍の夢」は実現するか』（芙蓉書房、2023 年）
- ・稲田十一『「一帯一路」を検証する—国際開発援助体制への中国のインパクト』（明石書店、2024 年）
- ・稲田十一「途上国のインフラ開発と日中の対応 国際的枠組みの強化に向けて」(『経済・安全保障リンケージ研究会報告書』日本国際問題研究所、2022 年 3 月)
- ・金子芳樹「変わる東南アジアの地域秩序—中国の台頭と米中対立への対応をめぐる」(萩野

寛雄編『現代日本におけるアジア論の地平』芦書房、2022年)

・鈴木早苗「ASEANのインド太平洋方針と日中の対応」『コラム/レポート』(日本国際問題研究所、2021年3月12日)

・平川幸子「日中関係—国交正常化50年の軌跡に見る期待と不安」, 「日本の東南アジア外交とアジア太平洋地域主義」, 「ASEAN—大国政治の狭間でめざす独自の存在感」(『トピックからわかる国際政治の基礎知識—理論・歴史・地域』渡邊啓貴編、芦書房、2023年)

・平川幸子「安倍外交の検証—ASEANと台湾への接近を中心に」(『問題と研究』第51巻第1号、2022年3月)

・Hirakawa, Sachiko, 'Can Japan's "high principle" diplomacy save ASEAN and Taiwan?' (*NATO and the Asia-Pacific*, The NATO Association of Canada, 2020)

・Fukuda, Tamotsu, 'Japan and ASEAN: Fifty Years of Cooperation and Trust' (Leszek Buszynski, ed., *Handbook of Japanese Security*, MHM Limited, 2023)

・山田満・堀江正伸編著『新しい国際協力論〔第3版〕 グローバル・イシューに立ち向かう』(明石書店、2023年)

・吉野文雄「ASEANと日本 経済関係の50年」(『海外事情』第71巻第4号、2023年7・8月号)

(2) ASEANの統合における組織的求心力と遠心力

この分野での検証結果のポイントは、ASEAN諸国の経済面での対中依存の急速な高まりと対外政策における「中国傾斜」の進展、およびその度合いや対外認識の違いなどを背景にASEAN内で徐々に顕在化した分裂・分断の傾向である。一方で、覇を競い合う域外大国の対立に巻き込まれることを避け、いずれか一方への極端な傾倒を回避しようとするASEANの各種対応についても明らかにすることができた。この点に関する主要な研究成果を以下に挙げる。

・阿部和美「ASEAN加盟国と民主化」(『海外事情』第71巻第4号、2023年7月)

・小笠原高雪「アジア共同体におけるASEANの役割」(熊達雲編『アジア共同体の構築 実践と課題』日本僑報社、2021年)

・黒柳木司「弱者ティールとしての“ASEAN Way”—深化と拡大のための政策ツール」(後藤礼子・玉井良尚・宮脇昇編『談話と民主主義—公共空間におけるティール』志學社、2022年)

・鈴木早苗「ASEANのミャンマーへの関与とその変化」(『アジア研究』第69巻第3号、2023年)

・Suzuki, Sanae, 'Interfering via ASEAN? In the Case of Disaster Management' (*Journal of Current Southeast Asian Affairs*, Vol.40, 3: December 2021)

・Suzuki, Sanae, 'Can ASEAN offer a useful model? Chairmanship in decision-making by consensus' (*Pacific Review*, (Vol.34, No.5: September 2021)

・山田満・本多美樹編『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築 - 共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』(明石書店、2021)

・山田満「中国の影響下で試されるASEANの強靱性」(山田満・苅込俊二編『アジアダイナミズムとベトナムの発展』文眞堂、2020年)

・吉野文雄『ASEAN経済共同体』(唯学書房、2023年)

・吉野文雄「ASEAN統合の課題」(『海外事情』第70巻第4号、2022年7・8月号)

・吉野文雄「21世紀のASEAN安保協力」『海外事情』(第69巻第5号、2021年9・10月号)

(3) 域内各国の政治・経済・社会変動と対外関係

この点に関しては、カンボジア、ラオス、ベトナム、ミャンマー、インドネシア、マレーシア、フィリピン、東ティモールを国別に取り上げ、対中関係、とりわけ「一帯一路」構想や南シナ海問題との関係について分析を行い、国ごとの認識や対応を特徴づけ、さらにそれらを生み出す国内の政治・経済構造について明らかにした。また、それぞれの国が米中両国間におけるのコロナ禍における中国の「ワクチン外交」とそれへの対応などについてもリアルタイムで検証することができた。この分野に関する主要な研究成果は以下の通りである

- ・ Ito, Susumu, *Infrastructure Development and Public-Private Partnership: The Case of the Philippines* (Springer Nature, 2021)
- ・ 稲田十一 'Navigating the Beijing Consensus and Washington Consensus : Unraveling the Rise of China through a Japanese Lens' (カタルーニャ・オベルタ大学〔UOC〕セミナー Barcelona, Spain, 2024年2月15日)
- ・ 稲田十一 「カンボジアの近代化と社会変容」阿曾沼邦昭編『カンボジアの近代化—その成果と問題点』(文真堂、2023年)
- ・ 小笠原高雪 「米中対立下のベトナムとASEAN」(『海外事情』第69巻第6号、2021年11月)
- ・ Kudo, Toshihiro, 'Post-Junta Myanmar: "Democratization," Economic Growth, Coup d'Etat' (Shinichi Kitaoka ed., *A Western Pacific Union: Japan's new geopolitical strategy*, Japan Publishing Industry, Foundation for Culture, February 2023)
- ・ 工藤年博 「ミャンマーの対中政策 隣の大國との駆け引き」(竹中治堅編著『「強國」中国と対峙するインド太平洋諸國』千倉書房、2022年)
- ・ 清水文枝 「南シナ海をめぐる新たな米比関係」(『国際情勢紀要』第92号、国際情勢研究所、2022年3月)
- ・ 清水文枝 「コロナ禍の南シナ海問題 大國間で揺れるフィリピン」(『国際情勢紀要』第91号、国際情勢研究所、2021年3月)
- ・ 山田満 「東ティモールのASEAN正式加盟に向けた諸課題」(『海外事情』第71巻第4号、2023年7月)
- ・ Yoshino, Fumio, 'Transformation of Asian Business: From Industrialization to Digitalization', (Shioji, Hiromi, Dev Raj Adhikari, Fumio Yoshino, Takabumi Hayashi eds., *Management for Sustainable and Inclusive Development in a Transforming Asia*, Springer, 2021)

また、社会に向けた研究成果公表の一環として、本研究に携わる研究者によって『ASEANを知るための50章〔改訂版〕』を企画・執筆し、2024年7月に刊行予定となっている。その中でも特に「第38章 インド太平洋の地政学 米中の覇権争いとASEANの立場」、「第40章 対中経済関係 ASEANの対中依存は高まるが」、「第41章 対中政治関係 中国の対ASEAN分断、関与、懐柔、脅迫・強制」、「第42章 対米関係 中国へのカウンターバランス」、「第45章 ASEANの劣化 内憂外患」、「第47章 周辺から見たASEAN 緩やか結束の地域機構」、「第49章 拡大する中国の経済協力とその功罪 『国際援助規範』との関係」などには本研究の成果が反映されている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計36件（うち査読付論文 20件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 井上浩子	4. 巻 47巻43号
2. 論文標題 過去との和解、インドネシアとの共生 - 東ティモールの「争い」の終え方とそのジレンマ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 季刊 民族学	6. 最初と最後の頁 42-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋知子、湯川拓、鈴木早苗	4. 巻 第72巻
2. 論文標題 伝記的アプローチによる国際機構の研究 - 個人属性についてのデータセットの構築から	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国際社会科学	6. 最初と最後の頁 47-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木早苗	4. 巻 69巻3号
2. 論文標題 ASEANのミャンマーへの関与とその変化	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 71-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野文雄	4. 巻 第71巻第4号
2. 論文標題 ASEANと日本 - 経済関係の50年	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 72-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水文枝	4. 巻 第9号
2. 論文標題 米比安全保障協力の深化と南シナ海問題 防衛協力強化協定（EDCA）を中心に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 淑徳大学人文学部研究論集	6. 最初と最後の頁 145-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田 満	4. 巻 第71巻第4号
2. 論文標題 東ティモールのASEAN正式加盟に向けた諸課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 101-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田 満	4. 巻 第26巻
2. 論文標題 東ティモールの選挙 - 紛争後国家の民主主義の道	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ワセダ・アジアレビュー	6. 最初と最後の頁 80-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子芳樹	4. 巻 第26巻
2. 論文標題 マレーシアの選挙 - 途切れず続く選挙がもたらしたもの	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ワセダ・アジアレビュー	6. 最初と最後の頁 76-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 工藤年博	4. 巻 第26巻
2. 論文標題 ミャンマーの選挙 - 選挙はなぜ安定をもたらさないのか	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ワセダ・アジアレビュー	6. 最初と最後の頁 68-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部和美	4. 巻 第71巻第4号
2. 論文標題 ASEAN 加盟国と民主化	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 116-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上浩子	4. 巻 No.35
2. 論文標題 東ティモールの「主権回復」：対外的主権の視点から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Occasional Paper	6. 最初と最後の頁 15-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田十一	4. 巻 2022年度版
2. 論文標題 途上国のインフラ開発と日中の現状 国際的ルール・枠組みづくりの重要性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 経済・安全保障リンケージ研究会最終報告書 (2022年度)	6. 最初と最後の頁 113-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kiyoyasu Tanaka and Toshihiro Kudo	4. 巻 Vol.39, No.2
2. 論文標題 Democratic Reforms and Trade: Evidence from the European Union's Generalized System of Preferences for Myanmar	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Southeast Asian Economies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木早苗	4. 巻 2022年4月
2. 論文標題 ASEAN議長国によるミャンマー政治危機への対応	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 IDEスクエア (online)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木早苗	4. 巻 2022年版
2. 論文標題 2021年のASEAN : ミャンマー政治危機への対応とコロナ禍からの経済復興	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア動向年報2022	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木早苗	4. 巻 2000-2009 ASEAN 編
2. 論文標題 2000-2009年のASEAN : ASEAN共同体の萌芽	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア動向年報 2000-2009 ASEAN 編	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田満	4. 巻 74号
2. 論文標題 東ティモール独立回復20年の苦闘	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 138-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田 満	4. 巻 62巻2号
2. 論文標題 平和構築概念の拡散と陥穽 テロリズムが引き起こす統合と人権の相克	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野文雄	4. 巻 第70巻第4号
2. 論文標題 ASEAN統合の課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 100-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野文雄	4. 巻 第71巻第2号
2. 論文標題 ASEAN議長国インドネシア	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 72-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小笠原高雪	4. 巻 第69巻第6号
2. 論文標題 米中対立下のベトナムとASEAN	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 海外事情（拓殖大学海外事情研究所）	6. 最初と最後の頁 71-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田十一	4. 巻 第56号
2. 論文標題 カンボジア開発過程への中国の影響 国際援助協調の衰退と権威主義化の連動の分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会科学研究年報（専修大学社会科学研究所）	6. 最初と最後の頁 43-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田十一	4. 巻 2021年度版
2. 論文標題 途上国のインフラ開発と日中の対応 国際的枠組みの強化に向けて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済・安全保障リンケージ研究会報告書	6. 最初と最後の頁 43-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤晋	4. 巻 第27号
2. 論文標題 Revisiting Successful Public Private Partnership (PPP) Business in Asia: the Case of Water Concession in Metro Manila in the Philippines	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア経営研究	6. 最初と最後の頁 3-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤晋	4. 巻 第21巻第1号
2. 論文標題 Does Public-Private Partnership (PPP) Promote Infrastructure Development in Developing Countries?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際開発学研究	6. 最初と最後の頁 113-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 工藤年博	4. 巻 2021年
2. 論文標題 Background of the Coup D'etat: A Chain of Miscalculations	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IDE website: https://www.ide.go.jp/Library/Japanese/Publish/Reports/Kidou/pdf/2020_myanmar_02.pdf	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 工藤年博	4. 巻 2021年10月
2. 論文標題 ミャンマー・クーデターが突きつける日本の政府開発援助 (ODA) の課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IDEスクエア < https://www.ide.go.jp/Japanese/IDEsquare/Eyes/2021/ISQ202120_026.html >	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水文枝	4. 巻 第92号
2. 論文標題 南シナ海をめぐる新たな米比関係	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際情勢紀要 (国際情報研究所)	6. 最初と最後の頁 181-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木早苗	4. 巻 2021年版
2. 論文標題 2020年のASEAN 新型コロナウイルス対策とRCEP締結	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア動向年報2021 (日本貿易振興機構アジア経済研究所)	6. 最初と最後の頁 177-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木早苗	4. 巻 40(3)
2. 論文標題 Interfering via ASEAN? In the Case of Disaster Management	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Current Southeast Asian Affairs	6. 最初と最後の頁 400-417
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木早苗	4. 巻 34(5)
2. 論文標題 Can ASEAN offer a useful model? Chairmanship in decision-making by consensus	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pacific Review	6. 最初と最後の頁 697-723
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木早苗	4. 巻 No. 850
2. 論文標題 Measuring the Influence of Executive Heads in International Organizations : Illustrative Analysis on the Effects of Democratic Densit (共著論文: Tomoko Takahashi, Sanae Suzuki, Taku Yukawa)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 IDE Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平川幸子	4. 巻 51巻1号
2. 論文標題 安倍外交の検証 ASEANと台湾への接近を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 問題と研究	6. 最初と最後の頁 65-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野文雄	4. 巻 第69巻第5号
2. 論文標題 21世紀のASEAN安保協力	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 104-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野文雄	4. 巻 第92号
2. 論文標題 ASEAN逸脱国をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 世界政経調査会国際情勢研究所紀要	6. 最初と最後の頁 143-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野文雄	4. 巻 第21巻第2号
2. 論文標題 ASEANの財政をめぐる協力と統合	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際開発学研究	6. 最初と最後の頁 93-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 稲田十一
2. 発表標題 Navigating the Beijing Consensus and Washington Consensus : Unraveling the Rise of China through a Japanese Lens
3. 学会等名 カタルーニャ・オベルタ大学 (UOC) セミナー (Barcelona, Spain : 2024年2月15日) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 工藤年博
2. 発表標題 ミャンマー軍政と権威主義ネットワーク
3. 学会等名 国際政治学会 分科会C-3「ロシア・東欧分科会」(2023年11月11日)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山田満
2. 発表標題 新型コロナパンデミックと国際協力の課題
3. 学会等名 アジア共生学会 (2023年6月) (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Inada, Juichi
2. 発表標題 Chinese Influence on the Development Process of Cambodia: Analyses of the Relationship between a Decline in International Aid Coordination and the Shift to Autocracy
3. 学会等名 International Studies Association (ISA): Asia-Pacific Region Conference 2023, Tokyo (Waseda University: 2023年8月10日)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阿部和美
2. 発表標題 インドネシアにおける資源開発と住民
3. 学会等名 日本学術会議東北地区会議（公開学術講演会：2023年9月2日）（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阿部和美
2. 発表標題 パンデミック下における東南アジアのNGO
3. 学会等名 アジア共生学会（20周年記念シンポジウム：2023年6月17日）（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阿部和美
2. 発表標題 定着するパプアの「民主主義」
3. 学会等名 日本比較政治学会2022年度研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤 晋
2. 発表標題 Infrastructure Governance of the Philippines: Challenges and Prospects
3. 学会等名 60th Annual Conference of the Philippine Economic Society
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤 晋
2. 発表標題 Challenges in Infrastructure Governance in the Philippines: From Duterte to Marcos
3. 学会等名 Philippines Studies Conference in Japan 2022 (東京大学)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤 晋
2. 発表標題 JICA事業評価の概要と最新課題 - プロセスの視点を中心に
3. 学会等名 国際開発学会第33回全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤 晋
2. 発表標題 Innovation in Infrastructure Development in Asia: PPP Business Opportunity and Challenges in Postcrisis Recovery
3. 学会等名 17th Conference of International Federation of East Asian Management Associations
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木早苗
2. 発表標題 ASEANのミャンマーへの関与とその変化
3. 学会等名 アジア政経学会春季大会 (共通論題)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉野文雄
2. 発表標題 ASEAN財政統合
3. 学会等名 アジア政経学会2022年度春季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉野文雄
2. 発表標題 インドネシア産業のデジタル化 - ゴジェックを中心に
3. 学会等名 アジア経営学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 稲田十一
2. 発表標題 The Paths to Democracy in Former Portuguese Colonial States: Comparative Analyses of Angola and Timor Leste
3. 学会等名 IPSA(International Political Science Association), 26th World Congress, (2022年7月13日 online開催) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阿部和美
2. 発表標題 パプア分離独立運動におけるディアスポラの影響
3. 学会等名 アジア政経学会2021年度秋季大会 (2021年11月20日)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤 晋
2. 発表標題 Infrastructure Governance of the Philippines: Has “The Golden Age of Infrastructure” come?
3. 学会等名 国際開発学会 第32回全国大会（金沢大学、2021年11月20日 online開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤 晋
2. 発表標題 Infrastructure Governance under the Duterte Presidency: ‘The Golden Age of Infrastructure’?
3. 学会等名 European Association for Southeast Asian Studies, 11th Conference（2021年9月8日 チェコ online開催）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤 晋
2. 発表標題 Financing Infrastructure in the Philippines: BBB (“Build, Build, Build”) and PPP (Public-Private Partnership)
3. 学会等名 12th International Convention of Asia Scholars（2021年8月27日 龍谷大学 online開催）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤 晋
2. 発表標題 BBB and BRI: Duterte administration’s Infrastructure Development Strategy and Belt and Road Initiative
3. 学会等名 フィリピン研究会 第26回全国フォーラム（金沢大学、2021年7月18日 online開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 工藤年博
2. 発表標題 Myanmar 's China Policy: Resisting, Dealing and Hedging
3. 学会等名 GRIPS webinar project for Peaceful Competition with China on February 8th and 9th 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計29件

1. 著者名 浅野亮・土屋貴裕 (共著)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 芙蓉書房	5. 総ページ数 284
3. 書名 習近平の軍事戦略：「強軍の夢」は実現するか	

1. 著者名 稲田十一	4. 発行年 2024年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 280
3. 書名 「一帯一路」を検証する - 国際開発援助体制への中国のインパクト	

1. 著者名 阿曾沼邦昭編、稲田十一 (分担執筆)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 文真堂	5. 総ページ数 144
3. 書名 カンボジアの近代化 - その成果と問題点 (分担執筆：稲田十一「カンボジアの近代化と社会変容」)	

1. 著者名 Hoa Van Thi, Shioji, Hiromi, Le, Huong Lan Thi (eds.), Susumu Ito (分担執筆)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Springer Verlag Singapore	5. 総ページ数 392
3. 書名 Knowledge Transformation and Innovation in Global Society: Perspective in a Changing Asia (分担執筆: Ito, Susumu, 'Innovation in Infrastructure Development in Asia: PPP Business Opportunity and Challenges in Postcrisis Recovery')	

1. 著者名 Leszek Buszynski (ed.), Fukuda, Tamotsu (分担執筆)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 MHM Limited	5. 総ページ数 437
3. 書名 Handbook of Japanese Security (分担執筆: Fukuda, Tamotsu, 'Japan and ASEAN: Fifty Years of Cooperation and Trust')	

1. 著者名 山田満・堀江正伸 (編著)、阿部和美 (分担執筆)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 400
3. 書名 新しい国際協力論〔第3版〕 グローバル・イシューに立ち向かう	

1. 著者名 山田満	4. 発行年 2023年
2. 出版社 玉川大学出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 国際協力入門 - 平和な世界のつくりかた	

1. 著者名 濱田美紀編、工藤年博（分担執筆）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 日本貿易振興機構アジア経済研究所（eBook）	5. 総ページ数 427
3. 書名 ASEANと日本 変わりゆく経済関係（分担執筆：工藤年博「日本の対ミャンマーODA 拡大と凍結の論理」）	

1. 著者名 平和・安全保障研究所、浅野亮（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 朝雲新聞社	5. 総ページ数 262
3. 書名 アジアの安全保障2022-2023：ロシアのウクライナ侵攻と揺れるアジアの秩序（分担執筆：浅野亮「中国の外交」104-110頁）	

1. 著者名 山田満・堀江正伸編著、阿部和美（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 400
3. 書名 新しい国際協力論（第3版） グローバル・イシューに立ち向かう	

1. 著者名 阿曾沼邦昭編、稲田十一（分担執筆）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 文真堂	5. 総ページ数 137
3. 書名 カンボジアの近代化 その成果と問題点（分担執筆：稲田十一「カンボジアの近代化と社会変容」67-82頁）	

1. 著者名 竹中治堅編著、工藤年博（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 千倉書房	5. 総ページ数 256
3. 書名 「強国」中国と対峙するインド太平洋諸国（分担執筆：工藤年博「ミャンマーの対中政策 隣の大國との駆け引き」245-274頁）	

1. 著者名 Shinichi Kitaoka ed., Toshihiro Kudo（分担執筆）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Foundation for Culture	5. 総ページ数 512
3. 書名 A Western Pacific Union（分担執筆：Toshihiro Kudo, "Post-Junta Myanmar: "Democratization," Economic Growth, Coup d'Etat" pp.154-188）	

1. 著者名 桜井愛子，平体由美、福田保（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 308
3. 書名 社会科学からみるSDGs（分担執筆：福田保「SDGsを取り巻く国際政治」241-263頁）	

1. 著者名 S. Urata, K. Kuroda and Y. Tonegawa eds, Mitsuru Yamada（分担執筆）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 206
3. 書名 Sustainable Development Disciplines for Humanity（分担執筆：YAMADA Mitsuru, "The Trilogy for Peacebuilding: Beyond Obstacles of Democratization, Development and Peace" pp.101-117）	

1. 著者名 後藤礼子・玉井良尚・宮脇昇編、黒柳米司（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 志學社	5. 総ページ数 201
3. 書名 談合と民主主義 公共空間におけるディール（分担執筆：黒柳米司「弱者のディールとしての“ASEAN Way” 深化と拡大のための政策ツール」）	

1. 著者名 吉野文雄	4. 発行年 2023年
2. 出版社 唯学書房	5. 総ページ数 254
3. 書名 ASEAN経済共同体	

1. 著者名 中西輝政（編著）、浅野亮（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ウェッジ	5. 総ページ数 320
3. 書名 文明と覇権から見る中国（浅野亮分担執筆：「中国の『知能化戦争』 『パンデミック』以後、種としての人類の未来とディストピア」pp.231-273）	

1. 著者名 阿部和美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 288
3. 書名 混迷するインドネシア・パプア分離独立運動 「平和の地」を求める闘いの行方	

1. 著者名 山田満・本多美樹（編著）、阿部和美（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 260
3. 書名 「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築（阿部和美 分担執筆「紛争後社会の移行期正義 「民主主義大国」インドネシアの取り組みと限界」pp.133-151）	

1. 著者名 Susumu Ito	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer Nature	5. 総ページ数 141
3. 書名 Infrastructure Development and Public-Private Partnership: The Case of the Philippines	

1. 著者名 小笠原高雪ほか（共編著）、福田保（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 248
3. 書名 よくわかる国際政治	

1. 著者名 萩野寛雄（編著）、金子芳樹（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 芦書房	5. 総ページ数 234
3. 書名 現代日本におけるアジア論の地平（金子芳樹 分担執筆 第2章「変わる東南アジアの地域秩序 中国の台頭と米中対立への対応をめぐって」）	

1. 著者名 北岡伸一（編）、工藤年博（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東洋経済新報社	5. 総ページ数 482
3. 書名 西太平洋連合のすすめ（工藤年博 分担執筆 第5章「ポスト軍政のミャンマー 「民主化」、経済成長、クーデター」 pp.164-200）	

1. 著者名 吉澤誠一郎（監修）、石川博樹ほか（編著）、鈴木早苗（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158（鈴木早苗 分担執筆 「ASEANと地域協力」）	

1. 著者名 鈴木健人・伊藤剛（編著）、平川幸子（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 有信堂高文社	5. 総ページ数 280
3. 書名 米中争覇とアジア太平洋（平川幸子 分担執筆 「オバマ政権期における台湾への戦略的曖昧政策」 pp.104-128）	

1. 著者名 山田満	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 260
3. 書名 平和構築のトリロジー 民主化・発展・平和を再考する	

1. 著者名 大矢根聡（編著）、山田満（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 388
3. 書名 戦後日本外交からみる国際関係：歴史と理論をつなぐ視座（山田満 分担執筆 「内戦後の平和構築」 pp.256-262）	

1. 著者名 Peking University-Waseda University Joint Reseach Initiative ed、山田満（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Waseda University Press	5. 総ページ数 291
3. 書名 Understanding Regional Dynamics in Asia-Pacific（山田満 分担執筆 "The Asian Peacebuilding from the Viewpoint of 'Non-Traditional Security Cooperation: NTS" pp.78-95）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ASEANists' Website : 21世紀アジア研究会ウェブサイト http://aseanists.net/index.html</p> <p>「ASEANists' Website」は、科研費の一部を活用して本研究プロジェクトのメンバーが開設・運営しているウェブサイトで、研究会の報告内容、各メンバーの紹介と研究実績、研究エッセイや書評などを掲載している。</p>	
--	--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	阿部 和美 (Abe Kazumi) (00822230)	二松學舎大學・国際政治経済学部・講師 (32664)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	浅野 亮 (Asano Ryyo) (10212490)	同志社大学・法学部・教授 (34310)	
研究分担者	井上 浩子 (Inoue Hiroko) (20758479)	大東文化大学・法学部・准教授 (32636)	
研究分担者	工藤 年博 (kudo Toshihiro) (30450498)	政策研究大学院大学・政策研究科・教授 (12703)	
研究分担者	鈴木 早苗 (Suzuki Sanae) (30466073)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	稲田 十一 (inada Juichi) (50223219)	専修大学・経済学部・教授 (32634)	
研究分担者	小笠原 高雪 (Ogasawara Takayuki) (50247467)	東京国際大学・国際関係学部・教授 (32402)	
研究分担者	山田 満 (Yamada Mittsuru) (50279303)	早稲田大学・社会科学総合学術院・教授 (32689)	
研究分担者	伊藤 晋 (Ito Susumu) (50827350)	新潟県立大学・政策研究センター・教授 (23102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平川 幸子 (Hirakawa Sachiko) (80570176)	早稲田大学・地域・地域間研究機構・客員主任研究員 (72622)	
研究分担者	吉野 文雄 (Yoshino Fumio) (90220706)	拓殖大学・国際学部・教授 (32638)	
研究分担者	福田 保 (Hukuda Tamotsu) (90511105)	東洋英和女学院大学・国際社会学部・教授 (32718)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	黒柳 米司 (Kuyoyanagi Yoheji)		
研究協力者	清水 文枝 (Shimizu Ayae)		
研究協力者	丸山 実紗 (Maruyama Misa)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関